

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第4回会議次第
2. 委員会席次
3. 中里貝塚保存活用計画策定委員会 名簿
4. 議事関係
 - スケジュール案
 - 資料 前回委員会の指摘を踏まえた再検討箇所

東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会
第4回会議次第

平成30年7月20日(金)
北区飛鳥山博物館 講堂

1. 開会

2. 教育委員会挨拶

3. 議題

(1) 保存活用計画策定スケジュールの変更について〈スケジュール(案)〉

(2) 本質的価値の再検討 <資料>

4. 報告

5. その他

○次回委員会 平成30年9月 北区飛鳥山博物館講堂

6. 閉会

委員会席次

〔博物館講堂〕

《委員会》

石川副委員長 阿部委員長

吉村委員			
山口委員			
《オブザーバー》 野木文部科学技官(欠)			
伊藤管理課統括課長代理			

《区関係理事者》

松本委員代理
議波 様

山田委員

堀江委員

佐々木委員

雲出広報課長

馬場観光振興
担当副参事

丸本都市計画課長

岩本土木政策課長

佐野道路公園課長

野田企画課主査

出入口

《事務局》

鈴木事業係長	中島	野尻飛鳥山博物館長	
牛山	安武		

傍聴席

コンサルタント

壁

中里貝塚保存活用計画策定委員会 名簿

平成30年7月

(委員)

※敬称略

氏名	所属名等	
阿部 芳郎	明治大学教授(考古学)	
石川 日出志	明治大学教授(考古学)	
吉村 晶子	千葉工業大学教授(都市計画)	
議波 壽男	昭和町地区自治会連合会監事	松本会長代理
山田 和夫	上中里貝塚町会会長	
堀江 正郎	北区観光ボランティアガイド代表	
佐々木 富美子	公募(北区在住)	
山口 宗彦	区立滝野川第五小学校長	

(オブザーバー)

野木 雄大	文化庁文化財部記念物課文部科学技官	
伊藤 敏行	都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理	

(区関係理事者)

野田 和希	政策経営部企画課主査	企画課長代理
雲出 直子	政策経営部広報課長	
馬場 秀和	地域振興部副参事(観光振興担当)	
丸本 秀昭	まちづくり部都市計画課長	
岩本 憲文	土木部土木政策課長	
佐野 正徳	土木部道路公園課長	

(教育委員会事務局)

田草川 昭夫	教育振興部長	
--------	--------	--

(事務局)

北区飛鳥山博物館

館長 野尻浩行 事業係長 鈴木直人

事業係(学芸員) 中島広顕、牛山英昭、安武由利子

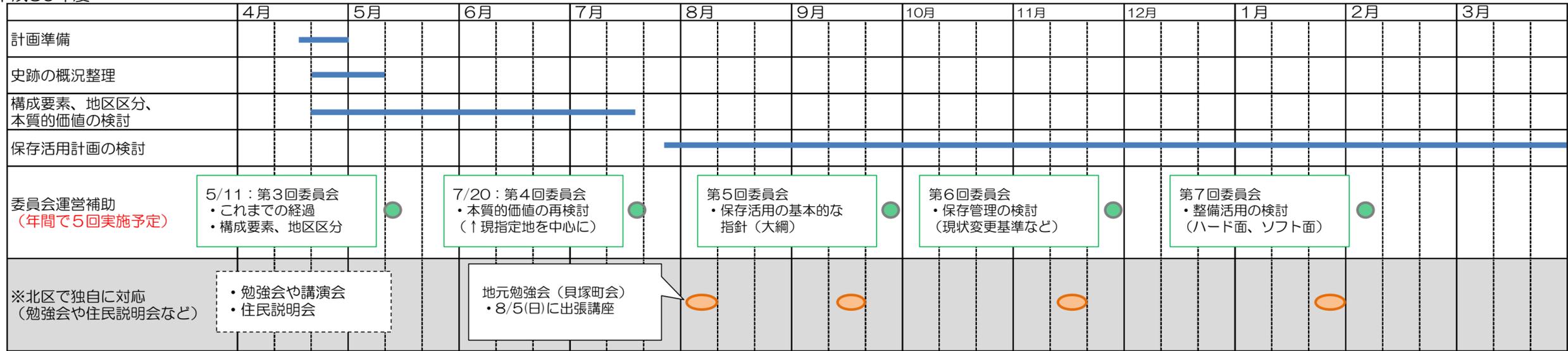
事業係 谷 木綿子

TEL:03(3916)1133 FAX 03(3916)5900

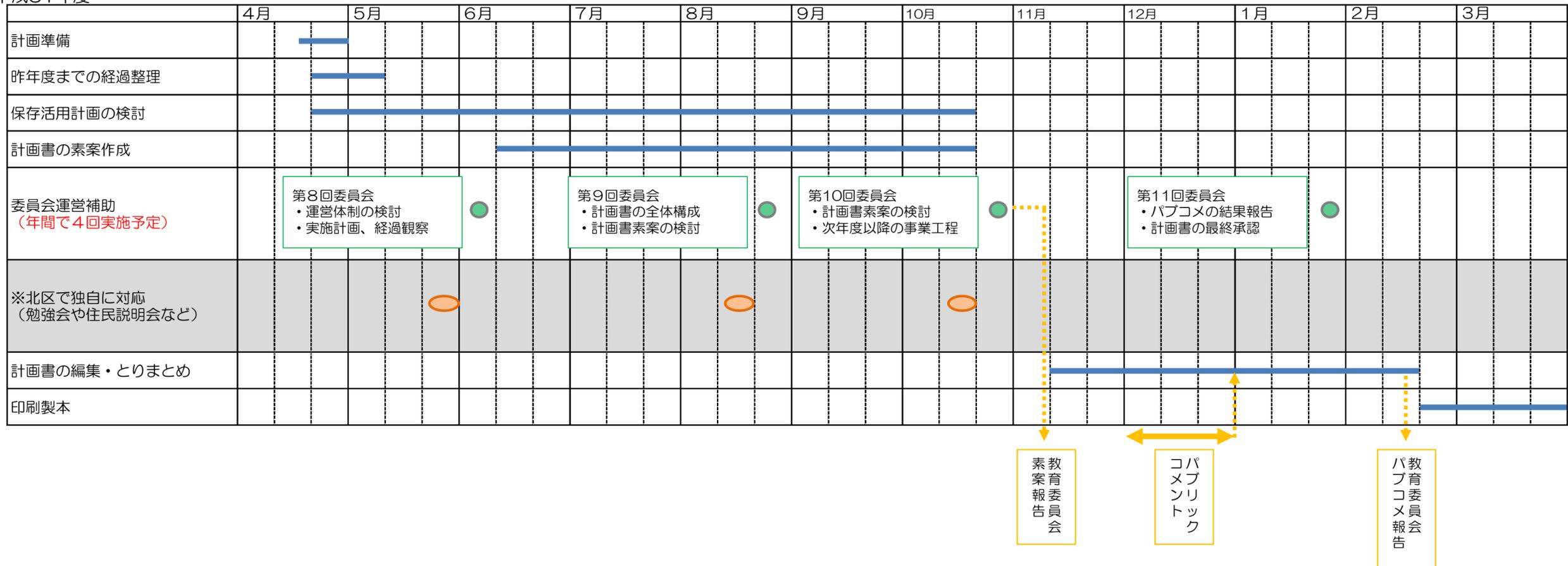
Email: hakubutsukan@city.kita.lg.jp

保存活用計画策定のスケジュール（案）

平成30年度



平成31年度



前回委員会の指摘を踏まえた再検討箇所

(1) 中里貝塚の価値の整理

- ・中里貝塚の価値には大きく分けて「本質的価値」と「社会的価値」がある。

本質的価値・・・発掘調査等の学術的視点から導き出される価値

中里貝塚は、縄文時代中期から後期初頭の海浜部に形成された大型の貝塚である。縄文海進によって形成された奥東京湾から東京湾に臨む南関東一帯には、数多くの貝塚が営まれた。貝塚は立地や出土遺物（食資源の残滓などを含む）の違い、居住地か否かなどによって「ムラ貝塚」と「ハマ貝塚」という類型に区分される。中里貝塚は「ハマ貝塚」を代表する貝塚であり、縄文時代の生産や流通から社会構造や地域的な分業体制などを考える上で不可欠の遺跡である。

都心部に残る貝塚の中里貝塚が有する本質的な価値は、概ね以下の5点に整理することができる。

① 貝類利用に特化した場

中里貝塚で検出された遺構は、貝層の他には木枠付土坑や焚き火址の貝類の剥き身処理に関わるものに限られ、居住施設はみられない。出土遺物は、土器や石器などの人工遺物が少なく、貝類以外の動物遺物は獣骨類が皆無、魚骨もごく微量であった。中里貝塚では狩猟活動は完全に欠落し、漁労活動も採貝以外は極めて低調であった。

このことから、中里貝塚は貝類利用に特化した場であり、活動の限定性が顕著で、「ハマ貝塚」の典型的な特徴を明示している。

② 専門性の高さを物語る貝塚

貝種はマガキとハマグリに限定し、しかも大型個体が選択的に採貝されている。マガキとハマグリは採貝季節が異なり、食材の旬を意識した資源の利用形態が見て取れる。マガキとハマグリの貝肉は干貝に加工されたと推定され、貝殻などの残滓は海岸線に廃棄し、貝層が形成された。また、大型個体の均質的なサイズを維持するため、生産者集団の計画的な資源管理が予測できる。

中里貝塚で組織的に行なわれたマガキとハマグリの干貝加工は、このような専門性の高さを物語っている。

③ 国内最大規模を誇る貝層の分布範囲

中里貝塚の貝層は、東西方向に長さ700m、幅100m以上の広い範囲に分布し、貝層の中心部分の層厚は2.0～4.5mと厚い。帯状に連なる貝層の形状は、「ムラ貝塚」にみられる馬蹄形や環状とは大きく異なる。また、貝層の面積は6万㎡以上と推定され、その総体積は関東地方の最大級とされる東京湾東岸の大型貝塚と比べ、隔絶した規模を有している。その要因は、縄文時代中期中頃から後期初頭にかけて約800年間に亘る、継続期間の長さや廃棄単位の大ささによるものである。

このように、中里貝塚の貝層規模が国内で最大規模であることに疑う余地はない。

④ 海浜部の立地を明瞭に示す縄文貝塚

中里貝塚は、縄文時代中期の海岸線に大量のマガキとハマグリの貝殻を廃棄し続けた結果、干潟を埋め立てて形成された貝塚である。その立地は、海退が進んだ縄文時代中期に、砂堆が発達した田端微高

地の北西辺に面している。中里貝塚北側には内湾が広がり、マガキやハマグリが生息する泥質干潟や砂質干潟の水域環境になっていた。

中里貝塚は、各種分析を通じて当時の立地や環境を明らかにすることが可能な、多くの情報を包含する貝塚である。

⑤ 内陸部集落へ供給する拠点となる貝塚

中里貝塚で生産された膨大な量の干貝は、石神井川など武蔵野台地を刻む河川流域の集落遺跡群に供給されたものと考えられる。これら内陸部集落の需要の高まりと軌を一にするように、干貝の生産加工が専門的に行われた中里貝塚は、生産と流通の拠点となる貝塚として位置づけられる。このことから、沿岸部の漁業集団と内陸部の狩猟・採集集団は地域的な分業体制を敷き、両者の間で食料物資などを交換することで、陸海の多様な資源環境を利用する広域的システムを構築していたと推定できる。

中里貝塚は、東日本に展開した縄文時代という定住化社会において、高度な水産資源の利用形態を象徴的に示す「ハマ貝塚」として重要である。

社会的価値…縄文時代以降、現代までに付加されてきた価値

中里貝塚は学術的・歴史的な価値（＝本質的価値）に加えて、下記に挙げるような現代社会や地域社会における価値（＝社会的価値）も有する。

① 学校教育や地域学習の場としての価値

中里貝塚に関する学校教育や地域学習の機会として、小中学校などの団体見学がある。主に飛鳥山博物館で展示されている剥ぎ取り標本を用いた解説などを実施しているが、現地を訪れる「北区文化財めぐり」等のまちあるきルートや歴史散策コースの一拠点としても利用されている。また、過年度の発掘調査やシンポジウムにおいては、現地説明会などを開催し、実物の貝層を間近で見学することで、史跡を体感する場として活用されている。

② 地域コミュニティの拠点としての価値

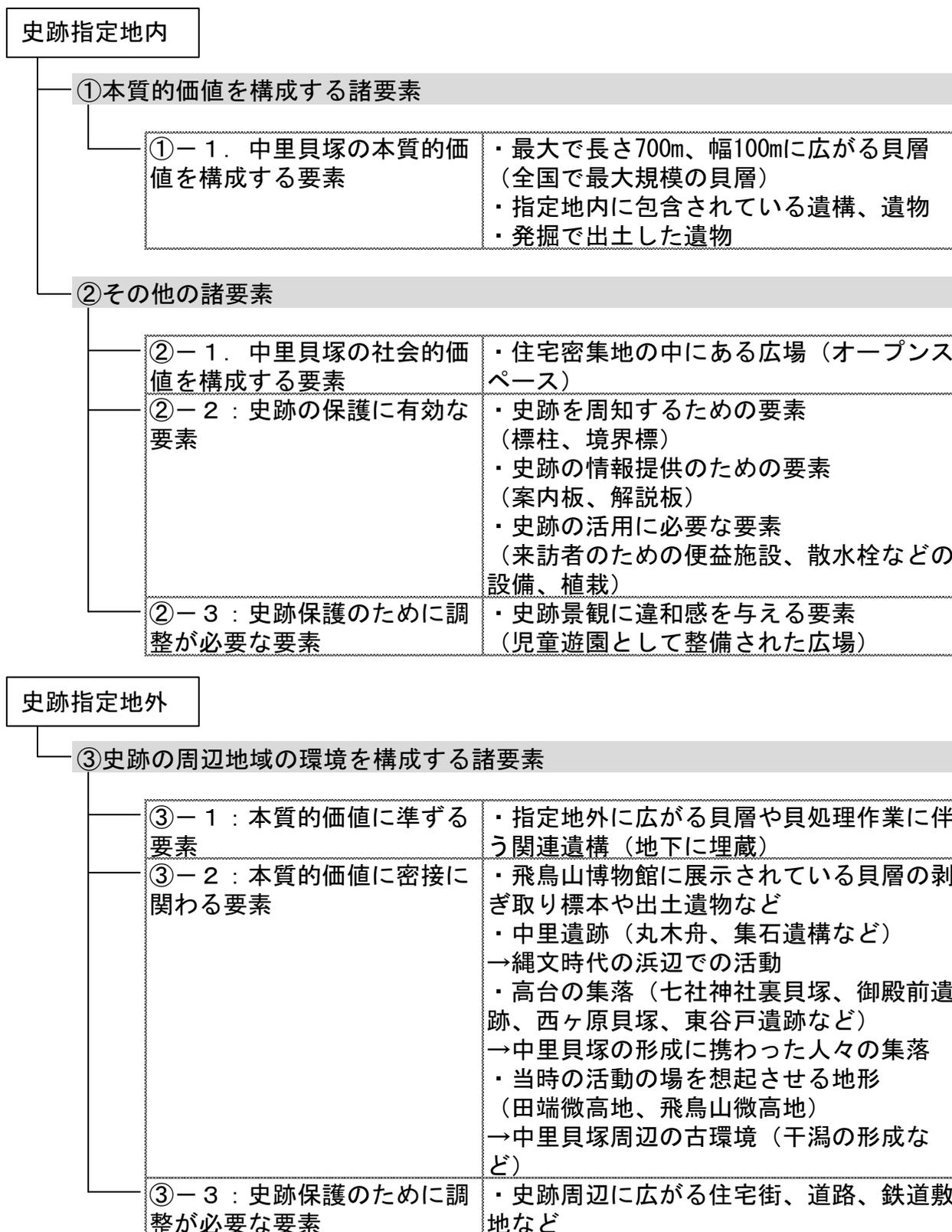
暫定整備されている中里貝塚史跡広場では、地元の「中里貝塚史跡広場管理委員会」により清掃等の維持管理が実施されており、広場内の花壇の手入れなども含め、地域コミュニティの交流の場として活用されている。また、史跡広場は近隣の子供たちの遊び場や高齢者の散歩コースとしても定着しており、地域住民が「みんなで使える空間」という認識を持ち、心の拠り所にもなっている。

③ まちづくり・地域振興・防災の拠点としての価値

中里貝塚の周辺には、史跡に関連する遺跡や北区を代表する名所旧跡が点在しており、北区の歴史文化を学ぶための拠点として活用されている。また、2ヶ所の史跡指定地は、住宅密集地に位置する数少ないオープンスペースであり、防災面での機能も期待されている。

(2) 中里貝塚の構成要素の整理

- 基本的に「史跡指定地内」および「史跡指定地外」において、現地に実際に存在するものを中里貝塚の構成要素として分類する。
- ①本質的価値、②その他の諸要素、③周辺地域の環境を構成する諸要素、の3つに分類。



史跡指定地内の構成要素の分布状況



(平成 29 年撮影の yahoo 航空写真を引用)

史跡指定地外の構成要素の分布状況

